

対象年度		令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		配水管更新事業						予算事業名		—			
予 算 科 目	会計	XX	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	水道法				
			XX	XX	XX	XXXX	経常経費						
総合計画体系	住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分		主要事業				
	地球環境にやさしいまちづくり												
	安全・安心な水道水の安定供給						担当課係等		水道課				
						工務係							
事業期間		継続 (平成 9年度～ 年度)											
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
管路の耐震性の向上を図るとともに、赤水及び漏水の解消を図る。							赤水の苦情が市民から恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである石綿セメント管をはじめとする老朽管を計画的に更新する必要があるため。						
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】						
石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。							石綿セメント管 鋼管・鋳鉄管・ダクタイル鋳鉄管 水道用硬質塩化ビニル管						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							赤水対策も要因の一つであるが、東日本大震災以降、管路の耐震化をいち早く進める必要がある。						
【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】					
石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。				石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。				石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。					
■事業費													
				R05年度		R06年度							
財源内訳	国庫支出金			30,373		0							
	県支出金			0		0							
	地方債			174,000		212,000							
	その他			37,716		9,766							
	一般財源			0		0							
歳入計 (千円)				242,089		221,766							
歳出内訳	節 (番号 + 名称)				金額 (千円)		金額 (千円)						
	12 委託料				12,819		4,851						
	14 工事請負費				229,270		216,915						
歳出計 (千円) (A)				242,089		221,766							
伸び率 (%)						-8.39							
備考	予算書 394～395ページ												
	第6次結城市総合計画 78ページ												

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	石綿セメント管更新延長	m	目標	1,500.00	1,500.00	1,500.00
			実績	0.93	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	石綿セメント管	m	目標	26,036.00	25,105.00	23,605.00
			実績	26,605.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	赤水に対する苦情は解消されつつあるものの、石綿セメント管をはじめとした老朽管を計画的に更新し、耐震化を図る必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手法が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率は年々向上しているが、工事費としては材料費・労務費・諸経費が高騰し続けており、コスト高となっている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広範囲に対して便益が提供されており、偏りはみられない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率は年々向上しており耐震化も図られているが、進捗状況が思わしくない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	ある程度進んではいるが、工事費の高騰により、更新率の向上はむずかしい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
配水管更新事業を継続して進めていくことにより、配水管上の漏水発生率が低下し有収率・耐震化率も向上しているが、工事費のコスト高により進捗状況は思わしくない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
赤字経営とならない程度に本事業を最大限進めていく必要がある。 令和5年度にて国費補助切れとなったため、県内水道広域連携の動向を踏まえながら、新たな補助事業を模索する必要がある。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 方向性の具体的内容 石綿セメント管等の老朽管が多く残存しており、赤水の発生や漏水の原因となっている。継続的に同事業を最優先事業に位置づけ、漏水が発生した路線の更新を優先的に進めることにより、災害時にも安定した給水ができるように取り組む。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり